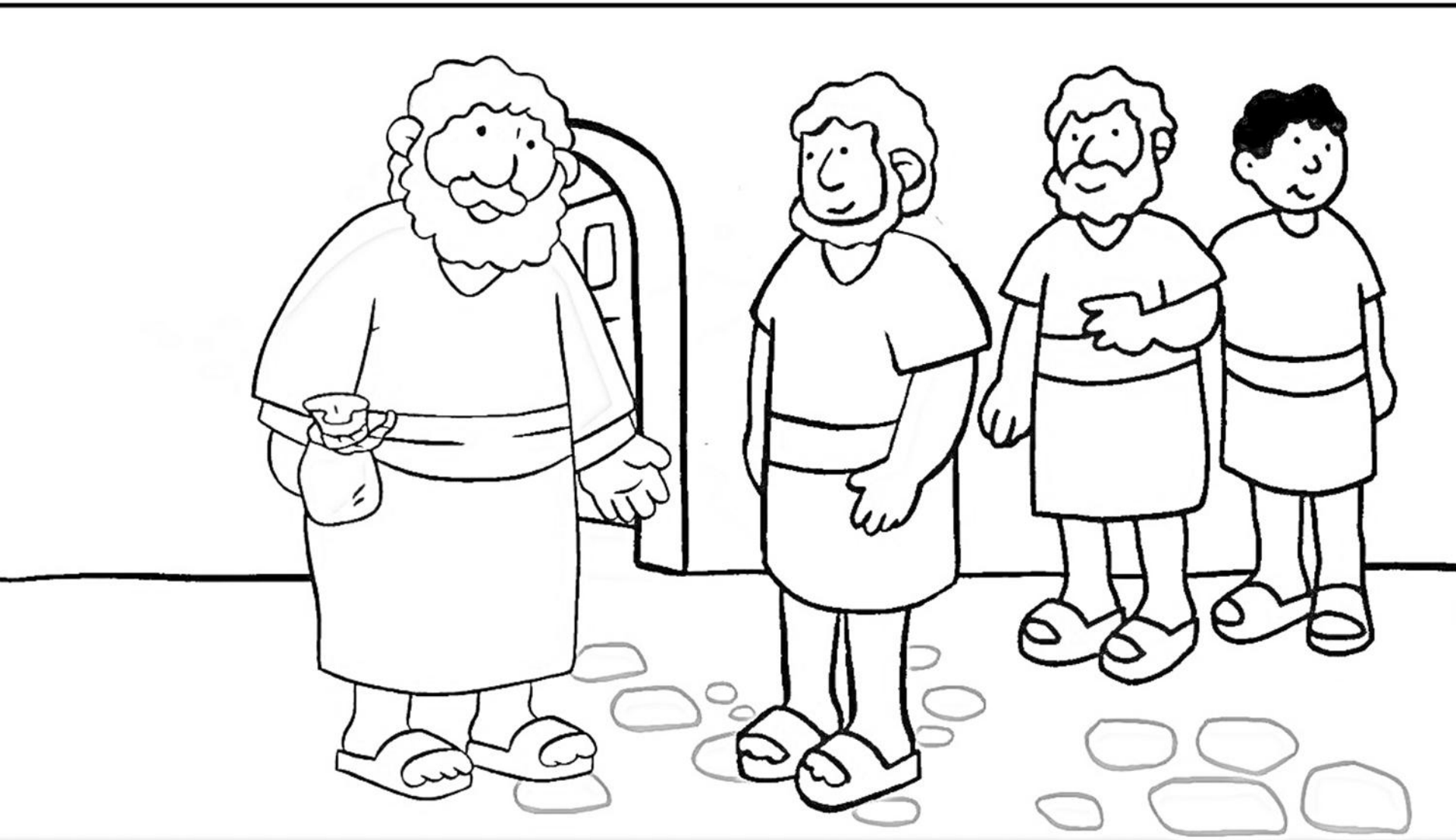
農園の労働者についてのお話

天国を、こんなふうにたとえることもできます。農園の経営者が、果樹園で働く日雇い労働者を雇おうと、朝早く出かけて行きました。そして、一日一デナリの約束で、彼らを果樹園へ行かせました。

二、三時間後、また職を求める人々の集まる場所へ行ってみると、仕事にあぶれた者たちがたむろしています。 それで、その人たちにも、夕方には適当な賃金を払うという約束で、果樹園へ行かせました。

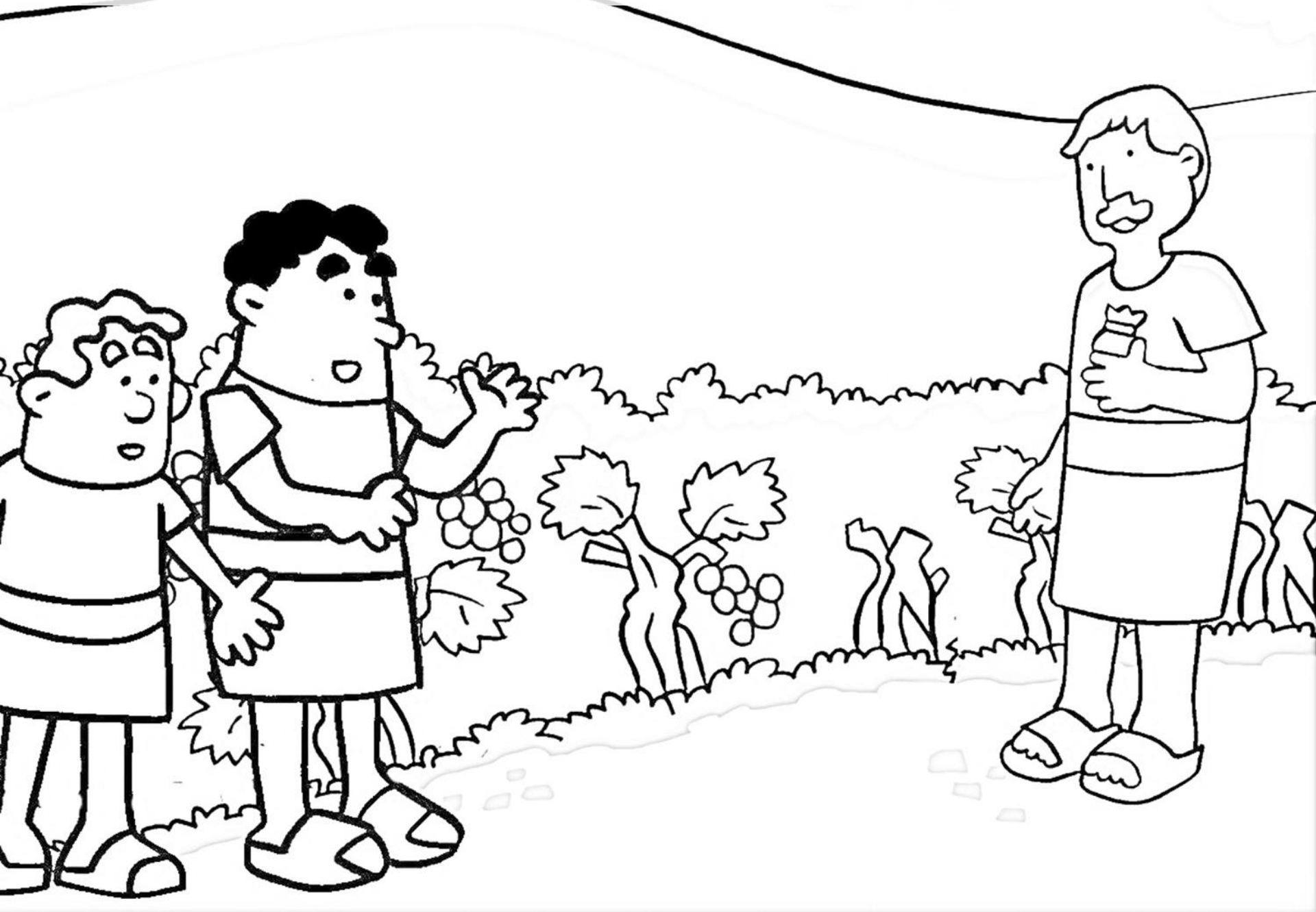
昼ごろと午後の三時ごろにも、同じようにしました。



夕方も五時近くに、もう一度出かけてみると、まだぶらぶらしている者たちがいます。『どうして一日中、何もしないでここにいるのか』と尋ねると、『仕事がないのです』と答えたので、農園主は言いました。『それなら今すぐ行って、私の農園でみんなといっしょに働きなさい。』

終業の時刻になり、農園主は監督に言いつけて、労働者たちを呼び集めました。そして、最後に雇った男たちから順に日当を支払いました。

五時に雇われた男たちの日当はなんと一人一デナリです。



それで、早くから仕事にかかっていた男たちは、もっとたくさんもらえるだろうと思いました。ところが、彼らの日当もやはり一デナリだったのです。当てがはずれた者たちはみな、農園主に文句を言いました。『あの人たちは、たった一時間働いた

ところが、農園主はその一人に答えました。『いいかね。私はあなたに何も悪いことはしていない。あなたは一日一デナリで働くことを承知したはずだ。文句を言わずに、それを持って帰りなさい。私はだれにでも分け隔てなく払ってやりたいのだ。自分の金をどう使おうと自由だろう。私がほかの者たちに親切なので、あなたは腹を立てているのか。』

ほとんどの人は、神が人を相対的に評価すると考えているようです。善人になろうと努め、深刻な過ちをあまり犯さないなら、死んで一生を終え、天国へ行った際に、おそらく平均かそれ以上の評価を受け、もし平均以下であるなら落第し‥‥といったようにです。

しかし、聖書によれば、そのようには行きません。救いは、善行への報酬なのではありません。「わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、‥‥わたしたちは救われたのである。」（テトス3:5）

www.freekidstories.org

Text from the Bible & Activated magazine.
Art by Didier Martin.